

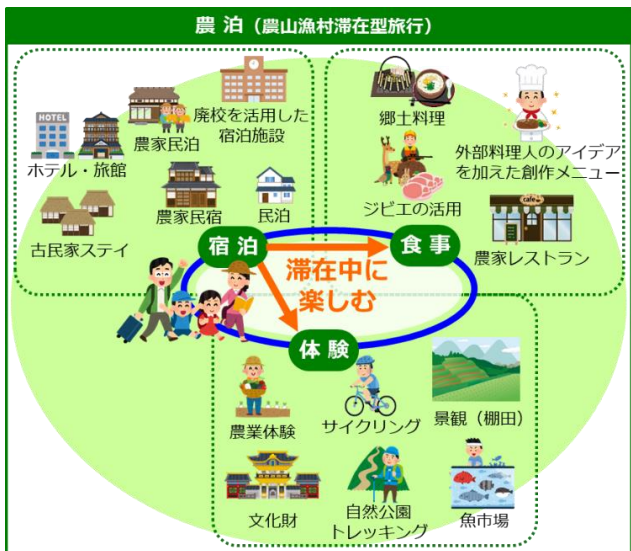
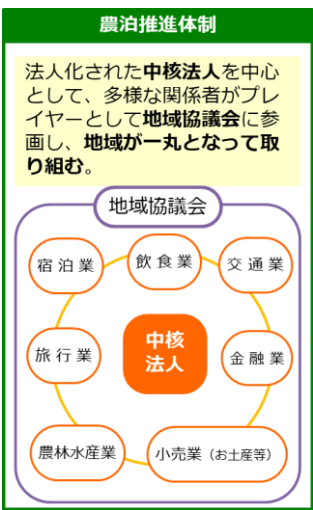
(2) 農山漁村発イノベーションの推進

イ 農泊・農福連携の推進

○ 農山漁村における所得の向上と地域の活性化を図るため、農山漁村振興交付金により、農泊を持続的なビジネスとして実施できる体制を持つ地域を創出し、都市と農村の交流や増大するインバウンド需要の呼び込みを促進するとともに、障害者の自信や生きがいを創出し、社会参画を実現する農福連携を推進しています。

- ・農山漁村発イノベーション対策(農泊推進型)により、観光コンテンツ開発、多言語対応やワーケーション対応等の利便性向上、滞在施設等の整備等を支援
- ・上記同対策(農福連携型)により、障がい者等の農林水産業に関する技術習得、ユニバーサル農園の開設、生産・加工・販売施設の整備等を支援

農泊推進型



農福連携型

- 【事業実施主体】**
- ・農林水産業を営む法人
 - ・社会福祉法人
 - ・医療法人
 - ・特定非営利活動法人
 - ・一般社団法人
 - ・一般財団法人
 - ・公益社団法人
 - ・公益財団法人
 - ・地域協議会
 - ・民間企業 ほか

1 農福連携支援事業 (交付率: 定額)

作業の効率化や生産物の品質向上等、農福連携を持続するための取組及びユニバーサル農園の導入に必要な経費を支援。

農産物加工技術の習得 ユニバーサル農園の管理 作業マニュアル

2 整備事業 (農福連携型) (交付率: 1/2以内)

障害者や生活困窮者の雇用・就労、高齢者の生きがいづくりやリハビリを目的とした農林水産物生産施設 (農園の整備を含む)、農林水産物加工販売施設、休憩所、衛生施設等の整備を支援。

農業用ハウス 農園・園路 トイレ

地域協議会等の取組へ支援

農泊推進事業	実施体制の構築、観光コンテンツの開発等に要する経費を支援	交付率: 定額 上限: 500万円×2年
人材活用事業	研修生の活用等に要する経費を支援	交付率: 定額 上限: 250万円×2年
施設整備事業	古民家等を活用した滞在施設、体験交流施設、農家レストラン等の整備に要する経費を支援	交付率: 1/2 上限: 原則2,500万円

などの支援メニューがあります。

農福に取り組む事業実施主体へ支援

単位: 万円

事業名	初年度	2年目	交付率	備考
農福連携支援事業	150	150	定額	該当する場合初年度に加算 該当する場合に適用
分業体制構築または作業マニュアルの作成	40	-		
整備事業 (農福連携型) の経営支援と併せ行う場合	300	300		
整備事業 (農福連携型)			1/2	1/2または上限額の小さい方を適用
簡易整備		200		
介護・機能維持		400		
高度経営	1,000			
経営支援	2,500			

農泊推進型の活用事例

- 一般社団法人 ^{たいき}大紀町地域活性化協議会(三重県大紀町)
- 協議会内に、「民泊部会」「体験部会」「観光部会」「特産品部会」を設け、農泊をビジネスとして受入体制を整備。
 - 協議会がワンストップ窓口となって町内の民宿や体験プログラムを手配。
 - 持続的に収益を確保し、農泊事業を継続するために、令和2年に法人化。
 - 令和5年より大紀町役場の外郭団体として、さらなる観光振興を推進。

【特徴的な取組】

- Webサイト・看板・パンフレット等の多言語化
- 地域の農林水産物を使った食のメニューとして、郷土料理「へか煮」やアユ料理等を開発
- 新たな体験プログラムとして、Taki E-bike Tourの開発
- 古民家等を活用した体験民宿等の開業支援
- 専門家の招聘による勉強会を通じた人材育成

交付金を活用してインバウンドの受け入れ体制を整備し、ワンストップ窓口を設けて、インバウンド向けの各種商談会への参加や営業活動を積極的に行ったことで、新規の問合せや取引が増加。旅行会社のリピーター率も高く、地域の農林漁業体験民宿では、団体旅行や教育旅行を多く受け入れている。



古民家を活用した「民泊東作塾」の開業支援



新体験プログラム開発事業・林業体験&デイグラ
ンピングモニターツアー



アユツーリズム「伝統漁
法アユのしゃくり体験」
×「アユの郷土料理」



農林漁業体験民
宿PR動画の作成



農福連携型の活用事例

社会福祉法人めひの野園(岐阜県飛騨市)

- 障害者の就労支援を主たる目的として、飛騨地鶏※の生産、食鳥処理、食肉加工、販売までを一貫して実施。
- 飼育部門(年間10,000羽以上の飼育管理、感染症対策、鶏舎の保全、鶏舎周辺の除草作業等)や加工部門(毛抜き、焼き鳥の串打ち、計量、包装等)において、20人以上の障害者が作業に従事。
- 障害特性に配慮し、細分化した作業から「出来ること、得意なこと、好きなこと」に着眼し、一人ひとりの強みや能力を活かし、達成感や自己肯定感が高まるように作業を割り当て。

※飛騨市が畜産振興及び地域振興を目的に開発した地鶏

【特徴的な取組】

- 季節に応じた飼育管理をマニュアル化
- 新たに食鳥処理を行う施設と機材を整備し、処理コストの削減及び処理羽数を増加
- 食鳥処理及び食肉加工技術を習得
- 焼き鳥の串セットや飛騨市特産のえごまを使用した「鶏ちゃん」は、飛騨市ふるさと納税返礼品に採用され、リピーターによる注文が増加

交付金を活用し、飼育羽数、食鳥処理数、食肉加工量を増加させることで、障害者の就労機会を創設し、処理コスト削減、商品開発、販路拡大を進め、売上の向上を図り、障害者の工賃向上と雇用を創出している。



食鳥処理施設を整備



焼き鳥の串打ち作業



鶏ちゃんなどに加工